

令和7年度 学校評価自己評価表(最終評価)

三次市立作木中学校

ミッション	(1)主体的・対話的で深い学びを創造し、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。 (2)作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさとを愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。 (3)コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。	ビジョン	「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～	(1)確かな学力の定着と自律的に学ぶ態度を育てる。 (2)生徒指導の4つの視点を意識した指導・支援により自己指導能力を育てる。 (3)基本的な生活習慣の確率と基礎体力の向上を図る。 (4)小中一貫教育とコミュニティ・スクールを推進し、ふるさと作木を愛し、地域に貢献する生徒を育てる。 (5)生徒と向き合う時間につき業務改善を推進する。
-------	--	------	---	---

中期経営目標	短期経営目標	評価項目	自己評価				改善策
			評価データ	達成度	評価	結果の説明	
知	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	◆生徒アンケートの肯定的評価80%以上 ①自分の考えを積極的に伝えている。 ②根拠を明らかにして相手に伝えている。 ③授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。 ④振り返りは「どこまで分かったか」「もっと考えてみたいことごと」などを考えている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①100% ②81.8% ③90.9% ④86.4% 平均 89.8%	112%	5	・すべての質問で肯定的評価の割合が目標値(80%)を上回っている。中間評価と比較して、①+12.5%、②+19.3pt、③+11.9pt、④+15.4ptと成果が見られる。しかしながら、質問②の項目については他の質問と比較して達成度が低いいため、根拠を明らかにして伝える指導を継続していく。	・引き続き、自分の考えの伝え方について、根拠を明らかにして相手に伝えるよう指導を行う。また、自分で考える際に根拠を必ず考えるよう指導を行う。
	○基礎的・基本的な学力の定着	◆三次市学力到達度検査(1・2年)については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト(3年)については県平均以上の生徒の割合を50%以上	◆5教科×21人=延べ105教科で県平均と比べると延べ31教科が全国・県平均以上であった。よって、全国・県平均以上の割合29.5%である。	59%	2	・1,2年生は1月の三次市学力調査について、3年生は1月の実力試験について、全国・県平均と本校生徒の5教科の数値を延べ数で比較した。中間評価と比較して、1.2%の向上はみられるものの、依然として、基礎的基本的な学力の定着に大きな課題が見られる。	・職員研修での授業交流を通して授業改善を行い、主体的・対話的で深い学びの実践につなげる。 ・個に応じた課題の設定などを通して、「わかる」「できる」を軸にした基礎的基本的な学力の定着の取組を引き続き行う。
	○自己調整力の育成	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合60%以上 ①定期試験等、自分で勉強の計画を立てている。 ②「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている。 ③分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①72.7% ②90.9% ③68.2% 平均 77.3%	129%	5	すべての項目において中間評価よりも数値が上がり、目標を上回っている。しかしながら、質問③の項目については他の質問と比較して達成度が低いいため、「わかる」「できる」を軸にした授業改善に取り組み、課題を最後まで探求する姿勢を培っていく。	・毎日の提出物4点セット(自学、Eノート、漢字、ライフ)への生徒の意識も向上しており、今後も声掛けを工夫する。 ・ICT等を利用した授業改善を行うとともに、家庭学習につながるような取り組みを工夫していきたい。
徳	○生徒指導・教育相談の充実及び主体的な生徒会活動の推進	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合85%以上 ①学校生活は充実している。 ②自分にはよいところがある。 ③自分はまわりから認められている。 ④自分は、努力すればたいていのことはできる。 ⑤自分で考えて、その場に応じた発言や行動をしている。 ⑥困りごとがある時、先生や大人に相談できる。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①73% ②100% ③86% ④95% ⑤95% ⑥73% 平均 87%	102%	4	・生徒アンケートの結果では、平均は87%であり、目標を上回っている。項目①、⑥については、中間評価に比べて、共に+6%の向上がみられるものの、目標値については下回っている。⑥に対する悩みや不安が、①の結果につながっていると考えられる。⑤については肯定的評価が95%と高いが、客観的に見たときに、適切な発言をしているかどうかは課題を感じるため、継続して指導していく必要がある。	・学級活動や生徒会活動、学校行事等の活動を通して、生徒への肯定的評価を細かく行い、自己存在感を育てる。 ・困りごとがあったときの相談窓口を明確化し、生徒が相談しやすい体制をつくる。 ・日頃から教師と生徒間のコミュニケーションを大切にす。 ・学級や学校全体でコミュニケーションが取りやすい活動を計画し、つながりを深める。
	○道徳教育の推進・充実	◆「道徳の時間」における生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①道徳の授業は好きです。 ②道徳では、自分のことを振り返りながら考えている。 ③道徳の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①81.9% ②91% ③90.9% 平均 87.9%	109%	5	・生徒アンケート結果では、肯定的評価の割合が87.9%であり、すべての項目で目標を上回っている。中間評価と比較して、①+2.9%、②+12pt、③11.9ptと成果が見られる。	・引き続き、生徒の実態に応じた道徳科の授業を行う。また、発問や活動の工夫を行い、道徳的価値を自分事として捉え、日常生活に生かそうとする態度の育成を図る。 ・自分の考えを表現するとともに、他者の考えを受け入れ、考えを深められる授業づくりを進める。
体	○基礎体力の向上	◆新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目の割合60%以上	◆県平均及び全国平均値以上の割合 1学年:37.5% 2学年:56.2% 3学年:37.5% ◆新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目は45.0%であった。	75%	3	・中間評価と比較して、9.2%向上が見られるが、依然として県及び全国の平均値を下回っている。特に筋力、敏捷性、瞬発力、全身持久力、スピードに課題がある。	・自己の新体力テストの分析結果から、生徒一人一人が次回の目標記録と体力を向上させるトレーニングを考案、選択させ、授業の導入部分や家庭で取り組めるようにする。 ・保健体育科の授業において、各単元に関わる補助運動や体づくり運動を導入する。 ・駅伝大会の練習を実施し、持久力の向上を目指す。
	○基本的な生活習慣の確立	◆3点固定のできている生徒の割合75%以上 ①家庭学習の開始時刻 ②就寝時刻 ③起床時刻	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①50% 平均 55% ②46% ③68%	73%	3	・生徒アンケートの結果では、平均55%であり、目標値を下回った。中間評価と比較しても、達成率が9%下がっている。就寝時間、家庭学習の固定ができていない生徒の割合が特に多い。	・生活ノート(ライフ)等で自己の生活をふり振り返り、生活習慣の改善につなげる。 ・教育・学習相談を通して、生活・学習習慣について指導・助言を行い、生徒の自己指導能力を育てる。 ・生徒会と連携し、生活習慣を確立することの良さについて考える場面を全校で設け、自己の生活に生かせるように取り組む。
信頼される学校	○積極的な情報発信	◆保護者の学校評価アンケートの肯定的評価80%以上 ①作木中学校の教育に満足している。 ②作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。	◆保護者の学校評価アンケート「作木中学校の教育に満足している」の結果 ①78.9% ②94.7% 平均 86.8%	109%	4	・目標への達成度は109%となり、目標を達成することができた。中間評価と比較して、総合的には2.6%向上している。 ・①の学校満足度については、中間評価と比較して5.3pt減少している。 ・②の情報発信については、中間評価と比較して+10.5ptと大きく向上している。	・満足感については、細やかな生徒への声かけや支援、保護者との密な連携をより充実させ、改善に努める。行事等についても、肯定的評価は高いが、新コア・カリキュラムを柱により魅力的なものになるよう取組を進める。 ・情報発信については、今年度よりホームページの更新頻度を大幅に増やしているため、今後も継続して生徒の頑張りや学校の取組等を積極的に発信していく。
	○作木ふるさと学習の推進・充実	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①自分の住んでいる地域のことが好きです。 ②現在または将来、地域に貢献していきたいという思いを持っている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①77.2% ②68.1% 平均 72.7%	91%	4	・目標の達成度は91%であり、目標を下回ってはいるものの、中間評価と比較して+23ptと大きく向上している。 ・中間評価と比較して、①については23.2pt、②については14.1pt向上した。学校の様々な取組において、学校運営協議会や地域子ども応援隊の方々にも協力していただいたことが、郷土愛や地域へ貢献する意識の向上につながったと考えられる。	・次年度は、新コア・カリキュラムの取組をもとに、より地域の魅力を感じる活動を仕組んでいく。また、学校運営協議会や地域子ども応援隊と連携し、地域の方と一緒に活動する場を増やし、郷土愛、地域貢献の心の育成につなげていく。
	○業務改善の推進	◆職員アンケートの肯定的評価の割合60%以上 ①子供と向き合う時間が確保されている。 ②業務改善を進めることを意識している。	◆職員アンケートの肯定的評価 ①80% ②100% 平均 90%	150%	5	・目標値の達成度は150%であった。中間評価と比較して、①の子供と向き合う時間の確保、②の業務改善への意識とともに、10%向上している。	・②の業務改善についての取組が、①の生徒と向き合う時間の確保の増加につながっていると考える。今後も風通しの良い職場づくりに取り組み、業務内容の精選や役割の明確化等を職員全体で議論し、職員間の合意形成をもとにして業務改善に取り組んでいく。

学校自己評価	5 100%以上 目標を十分達成している
	4 80%~100%未満 目標を概ね達成している
	3 60%~80%未満 目標をやや下回っている
	2 40%~60%未満 目標を下回っている
	1 40%未満 目標を大幅に下回っている

学校関係者評価	A	自己評価は適正
	B	自己評価は適正でない
	C	判断できない